

五十嵐ゆうこの米國小売業最新レポート

2022年8月05日

Amazon + One Medical

医療ケア企業 One Medical の買収計画を発表した Amazon

米国でのヘルスケア事業の拡大を推し進める Amazon は、サンフランシスコに拠点を置く医療ケア企業 One Medical を日本円で約 5200 億円 US39 億ドルで買収する計画を発表しました。

現在、One Medical 社の株主と規制当局の承認待ちの状況です。



Amazon は 2018 年にオンライン薬局 PillPack の買収を手始めに医薬品をオンラインで販売する Amazon Pharmacy や PCR 検査のサービス Amazon DX、自社の従業員の為にスタートしたヘルスケアサービス Amazon Care などのヘルスケア事業を営んでいます。

そこに全米で 8 千社以上の企業と提携して医療ケアを提供し、およそ 80 万人の加入者に 24 時間 365 日をバーチャル・ケアで対応可能な One Medical を加えることで、Amazon のヘルスケアサービスが更に強化されることとなります。

One Medical の親会社 ONEM（ワンライフ・ヘルスケア）の株価は、この発表直後の取引開始時に 65%以上急騰し、一方で CVS Health Corp と Walgreens Boots Alliance の株価はわずかに下落しました。

このまま買収が承認されれば、近年に医療の川上から川下までを網羅しようと取り組む Walgreens や CVS などの大手ドラッグストアチェーンの足元を大きく脅かす事態になります。

今年の初め Amazon Pharmacy が事業スタート後、CVS の株価は 8.6% 下落し、Walgreens は 9.6% 下落、業界 3 位の Rite Aid はなんと 16.2% も下落しました。

買収計画を発表した Amazon Health Services の上級副社長ニール・リンゼイ氏は、「米国のヘルスケアは改革が必要で、Amazon が今後数年間においてそのヘルスケアを劇的に改善する手助けを担う企業の一つになる」と語っています。

One Medical を傘下に収めることによって Amazon は『患者及び医療費の支払情報と病院システムとの関係』にアクセスできるようになる。と業界のアナリストは言及しています。

パンデミックによって遠隔医療部門サービスの需要が急増した One Medical は、最新の四半期決算報告書で新規加入者が前年より 28% 増加しています。

この発表直後、一部の批評家は Amazon が今後アクセス可能となる One Medical 加入者の健康データの取り扱いについて懸念を表明しています。

例の 1 つとして、非営利の提言団体 Tech Oversight Project の事務局長サシャ・ハワース氏は CNN のインタビューで、「Amazon が個人的な医療データに裏口からアクセスすることは率直に言って恐ろしいことで、ハイテク大手が独占的な力の乱用を防ぐために反トラスト法改革を可決しなければならないか現在取り組み中である。」と述べました。



米国の医療にかかる費用は日本の約4~5倍とも言われ、成人病などの面倒な病気にかかれば個人の負担は莫大な額となります。

先進国全体において米国の医療費は異常であるとの声も多く、国内で自己破産の申告する8割近くの人々が医療費に関係しているといった統計もあります。

実際、救急車を一度利用すると2千ドル以上請求されるといった日本では考えられないような事態が起こります。

仮に健康保険に加入していても保険会社がカバーする限度額を超えれば、自己負担が発生します。

大手企業が提供する保険は自己負担額が無い商品もありますが、中小や個人で加入する保険は、おおよそ保証される金額のリミットが低額です。

それを解決する為にオバマ前大統領が施行したオバマケアは、医療にかかる負担を皆から集める保険料でシェアし、誰もが高額な治療を受けることが可能にするといった制度の提案でした。

しかし、オバマケアへの加入は国民の義務ではないために加入率が低く、決して成功とは言えません。

その理由は、個々の収入によって保険料金が決まる点です。低所得者にとって少ない出費だとしても、ある程度の収入があれば月々の保険料は高額となる為、中間所得層達にとっては不評で加入を避けているのです。

そもそもアメリカの医療費が高すぎる事が根本的な原因です。つい最近も私の知り合いで、後に請求される高額な医療費を懸念して手術をためらうといった事態が起きています。

そういう意味では Amazon Health Service の上級副社長が、「ヘルスケアは米国の改革にとっても必要だ」といった発言も理解出来ます。

Amazon が One Medical を買収するという発表直後に読んだトップ・ニュースのタイトルは、"The health care system in America is broken. Can big tech fix it? (アメリカのヘルスケア・システムは破綻している。果たしてビッグテックは解決できるだろうか?)" でした。

今まで Amazon が小売業の世界で起こしてきた価格破壊が米国の高額なヘルスケアでも実現するのか? という期待の声もあります。

その一方では「Amazon によって自分の健康に関するデータが脅かされるのは嫌だからメンバーシップをキャンセルする。」というツイートも One Medical の利用者からアップされているようです。

米国民が年間に支払う処方箋の支出は 5000 億ドル以上となっており、年毎に 7% ずつ上がっています。

大手ドラッグストアチェーンを始めとするヘルスケア業界のみならず、多数の米国民が Amazon と One Medical の統合への成り行きを固唾をのんで見守っている事に間違いは無いようです。

